

市議会意見交換会「議員と語っちゃオ!!」 記録

日 時： 令和1年11月12日 昼の部13:30～ 夜の部19:00～

会 場： 諏訪市役所 5階 大会議室

参加者数： 昼の部28名 夜の部32名 合計60名

実施方法： 昼・夜の部とも5グループに分かれ、グループごとに意見交換

いただいた主なご意見：

昼の部 Aグループ 議員：牛山智明・井上登・高木智子 市民の方6名

◎メガソーラーについて

- ・200haという広大な土地の開発、7万3000本の木を切る。
- ・水、金属が流れ出る。景観、土砂崩れなど懸念材料がたくさんある。
- ・県で決めるのではなく、市で環境委員会を作ってほしい。

◎地区の温泉について

- ・組合員が減り、高齢化も進んでいるため維持が難しい。
- ・解体するにもお金がかかる。
- ・無償で市に渡して市で管理してもらうのはどうか。

◎災害について

- ・ハザードマップどおりに逃げて大丈夫なのか。
- ・市の総合防災訓練のあり方を考え直したらいいのでは。
- ・避難所に持っていく物や、避難所でどう行動するかを訓練したらいいと思う。

◎まちづくりについて

- ・総合した計画になっていない。
- ・箱モノを作るのに背景となる文化ストーリーがない。
- ・ランドデザインを誰が考えるべきか。議員に旗振り役をやってほしい。

◎議会について

- ・形骸化している。
- ・自由闊達な議論になっていない。
- ・もっと明るくわかりやすくしてほしい。

◎障がいがあっても暮らしやすいまちについて

- ・道が悪い。
- ・本町1丁目からがひどい。
- ・国道が歩きづらい。

昼の部 Bグループ 議員：小山博子・藤森靖明・吉澤美樹郎 市民の方6名

◎諏訪の魅力、今後の諏訪のあり方について

- ・諏訪が好きな子供を育てたい、増やしたい。
- ・若い人が戻ってこられる環境。働く場づくり、地元就職、地域の活性化。
- ・地域の愛着度を引き上げたい。下諏訪・茅野など周辺地域が活発になっている。
- ・多様性が進んでいる中でまとまりを持つことは極めて難しいが、秀逸地区はそ

れを決め込んでいる。

- ・各市町村には各々メインテーマがあるように思う。諏訪が結集すべきテーマを決め込んでほしい。
- ・東バル跡地の活用、6市町村の連携、どのように進められるのか。
- ・上諏訪駅西口再開発はどのようになっているか。
- ・燃えるゴミの有料化、上・下水道の問題、公共交通機関について。
- ・高齢者の運転が目立つが、公共交通対策は。
- ・JR（特急停車）問題は後手にまわった。どう進めるか。
- ・行政からの地区役員の見直し。すでに役割を果たしている役があるのでは。（保健指導員、防火防犯等）
- ・地区の少子高齢化により、地区役員の負担が働く世代にじわじわと。
- ・議員報酬UP、議員数のUP。なり手がいない。市議会議員が議員立法として通すことは難しいか。
- ・市民と行政の連絡協議会をつくり、政策をつくりたい。

◎環境・自然について

- ・諏訪湖の水質改善への取り組み、連携が弱いのではないか。
- ・霧ヶ峰の大規模ソーラー開発について、市議会はどのように考えているのか。
- ・守屋山、すわ湖の森、霧ヶ峰のメガソーラーの負の遺産の20年後が心配。
- ・霧ヶ峰の農場、スキー場の自然を、観光面を含め心配している。
- ・茅野市や四賀の人と禍根を残さないで。

◎教育、福祉について

- ・生涯学習課の公民館は使用料が減額にならないが、減額してほしい。不登校の児童、生徒が使うような教育に関することには配慮いただきたい。
- ・社会福祉、介護、保育の充実をお願いしたい。
- ・虐待問題や障がい児への配慮を。専門家が必要。
- ・子どもの貧困について現状を知りたい。
- ・ひきこもりの現実を知りたい。
- ・不登校の子供、苦しんでいる。そして親も。
- ・不登校政策をみんなで考えあう。
- ・情報交換会の場をつくりたい。
- ・小中一貫校の良い点・悪い点を知りたい

◎消防、防災について

- ・台風などの避難の仕方、特に身体障がい者、ペットの連携はどうなっているか。
- ・現実的な防災避難対応。
- ・消防団員の確保、若者がいても入らない。活動の見直しや災害時対応について。

昼の部 Cグループ 議員：岩波万佐巳・近藤一美・牛山正 市民の方6名

◎防災関係について

- ・避難場所：きつい山道の小学校でいいのか。液状化する平地でいいのか。
- ・避難所は山際の学校や平地の学校でいいのか。
- ・諏訪市として浸水ハザードマップは作られているのか。
長野県より発表されているが、浸水10mのものしかないが、本当か。
- ・台風19号の時、避難場所が遠く、自宅の2階にいることを選んだ。
- ・上川の底さらいをしてほしい。
- ・防災の放送が聞こえない。
- ・避難所に行くのに川を渡らなければいけない。怖い。
- ・避難レベルを決めるのが難しかった。

- ・トイレ関係の防災用品が整えられているのか。特に女性。

◎教育関係

- ・諏訪市教育委員会の仕組みと取り組みを知りたい。
- ・小中一貫校が心配。(賛成だが)
現在城南小学校に通学。上諏訪中へ行くようになる子どもの処遇。
- ・城北小学校の今後。
- ・中洲小学校通学路の安全確保。
- ・子ども達がスマホを使用しているが、この枠に入ってしまう人との関わりができなくなってしまった子が多くなっているように思う。我慢できない子、協調性がない子も多い。カッとするとすぐに子どもを殺してしまったりするので、深く考えて実行に移したらいいと思う。人との交わりを多く持つ社会になって欲しい。
- ・親も忙しく幼い子との接触が少なく感じる。昔は帰るとお帰りと言ってくれる人がいた。世の中も変わり共稼ぎが多くなっているので仕方ないが、親子の触れ合いをもっとしてほしい。

◎道路関係

- ・歩道が歩きにくい。
- ・ベビーカーや車いすが通りにくい歩道が多い。
- ・図書館前の歩道は、歩道の真ん中に電柱があり歩きにくい。

◎福祉関係

- ・手すりが少ない。
- ・ディサービスが可能な場所(施設)はどこなのか。一覧表的なものが欲しい。
- ・諏訪市に住民票がない高齢者を諏訪市で介護する場合、サービスを受けられるのか。
- ・高齢化している市民への対応。
- ・介護施設職員が少ない。休みが取れない。
- ・リハビリ施設はいろいろな情報がもらえる。
- ・してほしいことを口に出してみる。協力してくれる人が現れる。情報を提供してもらえる。
- ・歩行具の斡旋、購入補助、貸出をしてほしい。

◎医療関係

- ・国保税が今は黒字だが、いつまで黒字でいられるのか。
- ・ジェネリック医薬品は安い。安全性が確認されていると思うので、大いに利用したらいいと思う。

◎環境関係

- ・霧ヶ峰メガソーラー必要なのか。
- ・人間生活するには水が大事。諏訪市の水源は安心か。
- ・逆浸透膜フィルターを通し、純粋な水にしたらどうか。費用はかかる。
※純粋な水は味がなくまずい。フィルターを通すとミネラル等がすべて除去されてしまうため。

◎すわっチャオについて

- ・駐車場問題。
- ・リピーターは高校生。年寄りが席に座れないと嘆いていた。

◎その他

- ・区活動への無関心。
- ・若者や子育て世代の行政参加。
参加のきっかけづくり…自身の問題としてとらえる。

引っ張ってくれる人がいる。

思っていることは言ってみれば通る。通ると嬉しい。また発言したいと思う。

・公的役員のなり手がいない。

アパートの住民や転入者は面倒なことにはかかわりたくないと思っている。

屋の部 Dグループ 議員：小松孝一郎・森山博美・小泉正幸 市民の方5名

◎教育・福祉対策について

1. 発達障害、不登校、障がいを持たれている人について

・子供の6人に1人は発達障害の傾向にあるという。発達障害に対する世間の理解や周知が必要。

・子供は各々違っている。症状を特性、個性と考えその子に合った対応が必要。
例：PCを介することで効果が出ている子もいる。IoTを使った学習支援やフリースクールなど多様な対応を考えてほしい。

・保護者が子どもの症状を受け止められず、表に相談できない家庭もある。保護者同士の情報交換も十分ではないが、そのような場に出てきてもらうことが大切。

⇒親に対するサポート。

・社会との係わりや自立のための支援が必要

⇒発達障害（グレーゾーン）の子どもへの就労支援に力を入れてほしい。

⇒仕事紹介、ジョブコーチなど、障がい者も同様。

・体の不自由な人が集まる場で日常の処理や対応ができるようにしてほしい。
例：オアシスがあるいきいき元気館に郵便ポストを設ける、等。

2. 高齢者や障がい者が安全安心して歩けるまちにしてほしい。

・車いす、高齢者手押し車、つえなどで歩道が歩きにくい、歩道がない。

例：文化センターの入り口のゲートは、車いすでは入りにくい。

実業高校前の歩道がザラザラ、また赤羽踏切工事で車が多い。

・小さな河川の縁に落下防止用の柵がほしい。

・障がい者、高齢者の目線で調査をしてバリアフリー化を進めてほしい。

3. 相談窓口などについて

・高齢者、特に生活困難者（障がい者、家族も同様）が気軽に困りごとを話せる場がほしい。

⇒ライフドアやあゆみステーションはあるが、敷居が高く感じているようである。その前の段階で気軽に話ができる場を望んでいるようである。

・福祉サービスが分かりにくい。もっとわかりやすくしてほしい。

⇒市など、こちらから手を差し伸べることも大切。

◎防災減災について

1. 情報の通知や周知方法について

①. ハザードマップについて

・ハザードマップは配布されているが、地区毎に詳細を市民に説明してほしい。
⇒水害の場合、地震の場合、同じ避難所で良いのか、など。

⇒自分の住んでいる地域の状況をもっと知りたい。

②. 市の放送が聞きにくい。

・特に高齢者は不安になってしまう。防災メール等あるが、高齢者は難しい。何らかの対応を。

③. 避難指示の地区指定が分かりにくい。

・ちなみに、グループ内で避難した市民の方はいなかった。議員の家族が実家に避難したのみ。

2. 河川について

- ①. 衣の渡川など市内の河川は草などの植物が多く、水の流れが停滞している。浚渫や草の除去を行ってほしい。

◎その他

1. 人口減少について

- ・結婚サポートをもっと活発にしてほしい。

2. 防犯について

- ・上諏訪地区で家の前のものを持っていかれるなどの事例がある。
- ・外国人？が多く不安に思う。

3. 公共施設

- ・湖南小学校では廊下の壁が壊れていた。
⇒その他、チェックを十分に行い早い修理を。
- ・清水のふれあいの家で夏ビニールプールを使うが、排水に苦慮している。対応をしてほしい。

昼の部 Eグループ 議員：廻本多都子・横山真 市民の方5名

- ・市の事業は継続性がない。カラス問題について農林課を訪ねて話をしたが、2週間たっても返答がなく、尋ねても職員がいない等、回答が悪い。
- ・子どもを3人育てているが、インフルエンザ予防接種についてはお金がかかる。人口減少社会からみても、少子化対策として補助制度の拡充を求める。
- ・6市町村に格差がある。諏訪市は国に準じているだけではないか。よって、手厚くしている市（茅野市）へ人口は流れている。
- ・働く女性が多くなってきていることにより、子どもを児童クラブに預ける率が増えている。家庭の経費は増える、もっと茅野市のように地域の方と交流できるような仕組み欲しい。今後は両親や子どもの面倒を見なければならず、ダブルケアとなり心配。
- ・子ども3人育てたが、不安だった。けれども18歳まで諏訪にいて、卒業後は都会へ進学してしまう。親は節約しながら生活し市県民税等税金を納めている。70歳ぐらいで諏訪に戻る傾向があり「良い時代に居ない」（流出してしまう）。
- ・すわまちクラブの有効性を議員にわかっていただきたい。補助金が廃止されたら自立は厳しい。現在多くの市民活動団体が登録され、定期的に講演会を開催し、中学校等からも依頼が多い。まずは子どもたちに諏訪を知る機会を与えるべき。
- ・南中が今回の台風の際に避難場所となったが、過去の校長は学校から地域に対してお便りを配り、学校との連絡強化を図っていた。
- ・豊田は危険区域がないので避難カードがない。逃げなくても問題ないと安心している。まずは指示どおり避難されることが重要ではないか。
- ・大手町は徐々に水位が高まる。内水排除ポンプが十分に機能されているか。
- ・霧ヶ峰の問題は。
- ・ここで話したことが、どこまで要望として通るのか。
- ・ほとんどの議員が選挙公約として「子供の事・高齢者の事」を掲げていたが、当たり前の問題であり、今後画期的な意見を議論してほしい。
- ・市長は二期連続無投票であり、いろんな問題を肌で感じているのか。
- ・カラス対策もしてほしい。

- ・公共施設の見直しを早急に進めてほしい。(古い施設も多い、面積10%削減)
- ・保育園は川の近くにあるので水害等心配。(城南、赤沼、こなみ、豊田)
- ・台風19号の避難勧告、指示について検証が必要ではないか。
- ・上諏訪地区の人たちは村部(中洲、湖南、豊田)のことを知らない。旧村部の人たちは上諏訪地区のことを知らない。無関心、分離されている感じ。
- ・観光のスローガンがないのが寂しい。
- ・駅前に観光案内所ができ、人(観光客)の流れができるようになった。
- ・ひきこもり支援をさらに具現化してほしい。
- ・NPO団体への支援を。
- ・すわまちクラブの運営について、今年度での補助金打ち切りに対して継続要望。
- ・霧ヶ峰開発への支援。自然を活かしてほしい。
- ・温泉のまちのあり方。
- ・文化行政のあり方。
- ・インフルエンザ予防接種補助を。(中学ぐらいまで支援してほしい)
- ・子育てに優しい市とは感じにくい。
- ・小さな公園ばかりで長い時間楽しめない。
- ・児童クラブの過密化が心配。あり方。充実した場所がほしい。
- ・ものづくり教育教材費に費用負担を。(子どもが3人もいると負担増)
- ・もっと子育て支援にお金をかけて。
- ・子どもが自然に触れる機会が減っているのではないか。
- ・食育にもっと力を入れてほしい。
- ・児童センターの職員がすぐにやめてしまい続かない。待遇が悪いのでは。
- ・SNSやYouTubeなどの視聴が与える子どもへの影響。

夜の部 Aグループ 議員：牛山智明・井上登・高木智子 市民の方6名

◎まちづくりについて

- ・かりんちゃんバスの運行の仕方を、ぐるぐる回らずにハブ化させる。
- ・歩道の連続性がない。
- ・陸上競技場が欲しい。
- ・東バル跡地の活用を。
- ・メッセはスタジアムをドームにして、そこでやったらいい。

◎観光について

- ・観光の研究が必要。
- ・水陸両用バスが高くて、人があまり乗っていない。
- ・地区の温泉を観光客に開放したらいい。
- ・諏訪は女性が1人で行って泊まれる温泉ナンバー1になっている。

◎議会について

- ・地方議会は二元代表制。議員もきっちりとした対案を用意して諏訪の将来について方向性を提案すべき。
- ・傍聴時また議員が議場で飲み物を飲んではいけない理由がわからない。

◎人口減少について

- ・ 20年後が心配、人口減少を乗り越えてやってほしい。

◎区について

- ・ 入区しない人がいて対応に困っている。

◎ゆめスクールプランについて

- ・ 小中一貫のメリットがわからない。中途半端な感じがする。

夜の部 Bグループ 議員：藤森靖明・吉澤美樹郎 市民の方7名

◎諏訪の魅力、今後の諏訪のあり方について

- ・ 高齢化が進む中で住みづらさを感じる。(道路整備、交通手段)
- ・ 地区役員など受ける方が少なくなっている。
- ・ 人口減少対策、地域活性化、産業等。
- ・ バイパスについて話し合われているが、現在の道路は市内どこであっても何十年も前のままであるところがほとんどであり、車社会になった現在に合わせた道路が必要。
- ・ 飯島交差点の車の流れが改善できるような対策を考えていただきたい。中洲方面から茅野方面への右折で渋滞してしまい、湖南豊田方面からの車両が中洲小からステーションパークへ抜け道として使われ、通学路が危険な状態となっている。
- ・ 地域の温泉の支援は市の水道局で対応できるので、支援を望みたい。

◎環境・自然について

- ・ ポイ捨て、不法投棄のない観光都市づくり。
- ・ 霧ヶ峰ソーラー事業による、水と諏訪ブランドのイメージダウンが心配。
- ・ 日本最大級のソーラーにもかかわらず、事業とその影響を知らない人も多い。何も知らずに作られてしまっているのか。きちんと知り、議会で早い段階で話し合われるようになってほしい。
- ・ 森を守るサポートを。森林税の分配を求めてほしい。議会から意見書を。

◎教育、福祉について

- ・ 不登校の子供達、学校の雰囲気になじめず登校できずにいる。子供たちが各学校で夜間1、2時間くらい通える場所を作ってほしい。
- ・ いじめのない社会を。情報を早くキャッチして予防する。
- ・ 中学生・高校生で自主的にイベント等を企画し実行している団体への補助を、1回きりでなく毎年補助していただけるよう働きかけてもらいたい。
- ・ 小中学校の今後の在り方は話し合いがされているが、保育園についても話し合いが必要では。
- ・ 小中学校の統合の状況がよく見えない。四賀小の建てかえ等に影響がある。
- ・ 介護職員の確保対策。
- ・ 今回の意見交換会は昼と夜の開催で託児所を設けたが利用者がいなかったということで、午前の部が必要ではないか。

◎消防、防災について

- ・ 台風19号の避難指示対応について、四賀は全員避難を求められたが、各戸への対応はどうすべきだったか。市の対応、各地区の対応を検証してほしい。
- ・ 河川の氾濫に対する改善策の検討、土手の整備、ポンプの設置。
- ・ 災害時の市内の状況がわからない。
- ・ SNS、Facebook、ツイッター等での発信の必要性。

◎台風19号関連について

- ・宮川、上川の河床堆積土の除去は。
- ・上川が決壊した時、市役所に発電機があるか。

◎産業の発展について

- ・市経済の活性化が必要。新規企業の誘致、現存事業所の拡大。
- ・物づくりは人づくり。(人づくりの取り組みが必要)

◎観光について

- ・上諏訪駅から高島城、諏訪湖周辺に案内する看板が少なく、迷人が多い。
- ・霧ヶ峰などの観光地を利用し、誘客の努力が必要。
- ・諏訪湖のサマーナイトフェスティバル、近隣住民が騒音に耐えられない。
- ・諏訪湖の花梨並木の必要性は。駐車場の不足しているので駐車場にしたら。

◎学校関連について

- ・中洲小の登校道路整備(校門から上社線間)。人車分離、道路拡幅。
- ・児童クラブの有り方。開始時間を早く(会社に間に合わない)。
- ・先生の働き方改革…プロミラミング、英語教育が始まるともっと厳しくなる。
- ・先生の働き方改革…議会の教育長の答弁を聞くと、あまり進んでいない。

◎その他

- ・霧ヶ峰メガソーラーはこのまま進めて良いのか。自然破壊では。
- ・図書館横の歩道のまん中に電柱あり、通行に支障。移設を。
- ・道の駅構想はどの程度の議論になっているか。傍聴していても、わからない。
- ・市政への関心を高めるために、一日市長の委嘱等の取り組みを。
- ・市民満足度調査は新しい指標で調査すべき。時代は変わっている。
- ・東バル跡地の活用は有識者だけでなく市民を入れた検討を。
- ・市体育館は老朽化しており、カーテンレール等細かな部分が壊れている。
- ・かりんちゃんバスは利用しやすいコース、時刻を。
- ・市道の雪かきをして欲しい。(昔は近隣住民がしていたが)
- ・上諏訪中心地区が人口減少。何か対策をして欲しい。
- ・介護職員の人手不足対策の取り組みが必要。

◎市役所職員関連

- ・自ら感じて、自ら動く姿勢が必要。
- ・感性の向上を望む。

◎人口減少に対する対策

- ・人口減少を踏まえた取り組みをどうするのか。(子育て対策)
- ・10年後、20年後の諏訪市のあり方。

◎子供を取り巻くこと、余裕ある子育て、子育て対策

- ・夜間の託児所。
- ・働かなくても、子供を見守れる社会へ。
- ・子供が主役になるまちづくり
- ・下金子区に遊び場(ボール遊びができる規模)がない。
- ・通学路が危険(特に、下金子区)。標識がほしい。
- ・待機園児はないとされているが、そのクオリティはどうなのか。

◎ごみ収集の不具合、利便性の向上

- ・燃えるごみの有料化はやめられないか。(有料化の妥当性)
- ・生ごみ処理機(補助金)の広報の必要性。自分で減量に寄与する意識づけ。
- ・生ごみの受け入れ先。さざなみの家のようなものが各地域に設置できないか。
- ・紙おむつの受け入れ、再利用の仕組み。
- ・時間外(早朝等)のごみ出しができるように。
- ・草の出し方。

◎すわっチャオ

- ・利用料が高い。会議室の使用料を安く。
- ・駐車場の1時間以上の利用が有料では、利用しづらい。
- ・放送大学の諏訪市への還元や貢献はあるのか。
- ・放送大学がある意味は。市の負担が多過ぎないか。
- ・職員が多過ぎないか。

◎防災

- ・各地区の自主防災組織の強化対策は。
- ・諏訪市の防災、減災対策はどうなっているのか。
- ・防災、減災に力を入れてほしい。
- ・未来の防災の担い手をどこから、誰へ持っていくのか。将来に対するビジョン、施策。
- ・IOT活用による災害情報の共有化の検討、研究。

◎太陽光発電

- ・今後どうなっていくのか。市としての方針、取り組み、スタンスは。

◎その他

- ・他の市町村に比べ、福祉対策が遅れている理由は。
- ・民間の団体との連携が少ない。(あゆステで、抜け落ちている部分がある。)
- ・若い人が諏訪市に住みたいと思うようになるには、どうしたらよいか。具体的対策は。(若い人にとって、住みづらい。)
- ・ライフドアへの委託業務で国の指針との位置付け、整合性は。
- ・老朽市庁舎の建てかえ。予算を含めてどうするのか。
- ・集合住宅やアパートの住民の意見、要望が市政、行政に反映する仕組みがない。

夜の部 Eグループ 議員：廻本多都子・小山博子 市民の方6名

◎避難について

- ・雨の中の避難呼びかけ。宮川を渡らせての避難はよかったのか。
- ・市長の避難の呼びかけは聞こえたが、周りが暗くて避難できなかった。
- ・もっと早い段階での呼びかけが欲しかった。
- ・避難の呼びかけのタイミングはよかったのか。
- ・要支援者がどこにいるか、誰が連れ出すかが明確になっていない。個人情報だから取り扱いが厳しく、区長だけが知っているが、情報を共有しないと助けられない。
- ・入区していない人の、要介護者はどうなるのか。
- ・茅野市では要介護者がマップに書かれている。誰が責任を持つか決まっているところもある。市全体の取り組みとしてもらいたい。
- ・災害によっては、避難場所を変えないと危険。
- ・防災用品は、場所によって偏っているように思う。
- ・避難場所によって、防災用品の備えがちがう。

◎避難場所

- ・区長の判断で公民館を避難場所として開設した所もあるが、指定された避難場所が遠いので、全公民館を市から要請して開設してほしい。
 - ・公民館が避難場所として開設されていたが、知らなかった。どこで情報を取ればいいかわからない。
- ◎防災無線
- ・消防団員が車で巡回をしてくれ、避難を呼びかけてくれた。その声は聞こえたが、防災無線は聞こえなかった。
 - ・雨の音で窓を開けても聞こえない。
 - ・普段から防災無線が反響して聞き取れない。
 - ・ラジオが欲しい
- ◎市のホームページ
- ・サーバーが動かなかった
- ◎消防団について
- ・団員の確保が難しい。
 - ・団員になると特典が欲しい。勧誘しやすい。例えば、減税とか。
 - ・ボランティア的な存在ではなく、強制的に出してもらいたい。
 - ・団長として、団員の命を守るという点から、ライフジャケットを着て巡回にあたってもらったが、今回の出動が適正だったのか。
 - ・子どもたちにもっと消防団のことを知ってもらう機会を増やしてほしい。
 - ・非常時に消防団が出動するので、残された家族のフォローをしてもらいたい。
- ◎コミュニティ
- ・地域のつながりが希薄。
 - ・小さなコミュニティができていない。
- ◎教育
- ・高校再編の話聞いた。市民の意見はどこで聞いてもらえるのか。
 - ・小中一貫校が本当によいかわからない。
- ◎メガソーラー
- ・諏訪市の人の関心の薄さが気になる。
 - ・将来的に山林の持ち主が手放したときに、その行方が心配。転売されないように、山林の管理を個人だけでなく、行政も関われないか。
 - ・霧ヶ峰をこれからどうしていくかという、長期の展望が見えない。もっと観光に活用できるようにしてもらいたい。
 - ・本当に作って大丈夫か。火災や水害が懸念される。火事が発生しても消せない。
- ◎すわっチャオの使用状況
- ・高校生が多く利用しているが、施設の利用状況はどうか。
- ◎ふるさと納税
- ・どのくらい利用されているか。
 - ・どのような物が返礼品になっているか。
 - ・少しでも多く収入になるように工夫してもらいたい。
- ◎空き家対策
- ・空き家が目立ってきた。対策は。
- ◎魅力ある諏訪に
- ・地元の子どもたちに、諏訪の自然を好きになってもらいたい。
 - ・卒業後、諏訪市を離れ戻ってこない。戻ってきたくなるまちづくりを。
 - ・未来構想を出してもらいたい。
- ◎障がい者支援
- ・子どもの支援はあるが、障がい者への支援が薄い。